

Title	成功者 (ハイ・ パフォーマー) の心理過程 - 達成動機を中心とした行動誘発の仕組みに関する考察 -
Sub Title	
Author	小窪久文(Kokubo, Hisafumi) 渡辺直登
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1996
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1996年度経営学 第1259号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001996-1259

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名

小窪 久文
(富士通株式会社)

主査 渡辺 直登

副査 高木 晴夫

高尾尚二郎

所属

渡辺 直登 研究室

境 忠宏

成功者（ハイ・パフォーマー）の心理過程

—達成動機を中心とした行動誘発の仕組みに関する考察—

本論文における研究テーマは「成功者（ハイ・パフォーマー）の心理過程」である。これは、最近の企業内人事制度におけるトレンドである「個の重視」という考え方と、実際に運営されている制度には、実際の成功者の成果創出を刺激する要因が含まれていないのではないか、という漠然とした筆者の危機感に端を発している。

基本的な問題意識は次の3つである。

- 問題-1 成功者に特有の心理過程というものは存在するのか。
- 問題-2 それを得るきっかけは何だったのか。
- 問題-3 それをどのようにして持続しているのか。

本論文では、筆者が本校派遣前から抱いていた「成功者の条件」を、心理過程の観点から考察し、動機づけ理論を中心として仮説としてまとめると共に、実際の成功者に対するインタビューを通じて、その心理過程の抽出を図り、実証を試みている。

また、その実証結果に近未来的視点を加味して、「未来の成功者」が持つであろう心理過程を理論的に考察している。

これまでの組織心理学や企業内人事制度の「ヒト」に対する視点は、普遍的な視点であった。「万人に広く認められる」傾向が理論として整理され、「万人に広く受け入れられ、支持される」考え方が企業内制度として具現化してきた。

しかし、本来の「個人」は、各自独特の認知や情報処理、思考、意思決定といった心理過程を持っているものである。その中で、企業の成長を支えるとともに競争力の源泉として機能する成功者（ハイ・パフォーマー）のみに焦点を絞り、その心理過程を刺激する要因を探索する必要性に、現在の日本企業は直面しているのではないだろうか。

本論文においては、実証結果を前提とした考察結果としての「未来の成功者の心理過程」を刺激する要因を複数抽出し、最終的に今後の人事施策提案、という形で、提言を行うものである。